

参加者向け説明会

説明会でお答えしきれなかった質問にお答えしています。質疑応答の様子は動画をご覧ください！

説明会でご登壇・ご回答いただいた皆様

- 内田 芳宏教諭（立教池袋中学校）
- 藤本 亜紀子教諭（山崎学園 富士見高等学校）
- 倉田 洋教授（産業能率大学）

第26回 日経STOCKリーグ 受賞者

- 林さん（筑波大学附属駒場高等学校）
- 久保さん（立教大学）
- 石田さん（東京大学）

※無記名…事務局

日経STOCKリーグ全般について

Q

日経STOCKリーグでは生成AIの利用について、どのように定めていますか。

A

今年度より、生成AIの利用について規定を定めました。

生成AIで生成した文章・成果物をそのまま転記・提出することや、第三者の著作権を侵害する生成・利用を行うことを禁止し、生成AIを利用した場合には利用内容をレポート内で明記していただくこととしています。

なお、表紙については生成AIを用いて作成いただいて構いません。

Q

どのようなことを調べれば良いのか教えてください。

A

ご参加の皆様には、社会課題や世の中の変化に対して、どのような企業が関わり、どのような価値を生み出しているのかを調べていただきます。

身近な関心事や社会で話題になっているテーマを設定し、そのテーマに関連する企業の事業内容や取り組み、成長性などを調査します。また、企業研究に加えて財務データなども参考にしながら分析を行い、テーマに沿った株式ポートフォリオを作成します。

その過程を通じて、社会にはどのような課題があり、企業がそれらにどのように関わっているのかを学んでいただきます。

参加者向け説明会

説明会で答えしきれなかった質問にお答えしています。質疑応答の様子は動画をご覧ください！

Q

どのような工程で進めていくと良いでしょうか。

また、日経STOCKリーグの目的は、学生が企業を応援し社会に関わることでしょ

A

まずチームで関心のある社会課題や世の中の変化をもとに「投資テーマ」を設定し、そのテーマに関連する企業について調べます。その後、企業研究やスクリーニングを通じてポートフォリオを構築し、なぜそのテーマや企業を選んだのか、どのような考えでポートフォリオを構築したのかをレポートにまとめます。

具体的な学習の進め方やスケジュール例については、man@bowに掲載している「ティーチャーズガイド」でご紹介しています。特に4ページに掲載している年間スケジュール例をご参照ください。

＜日経STOCKリーグとは ティーチャーズガイド＞

<https://manabow.com/sl/study/detail.html>

また、日経STOCKリーグの目的は特定の企業を応援することではありません。経済や社会、企業、株式投資について学び、社会課題や企業を見る視点をご参加の皆様に養っていただくことにあります。

Q

最終的には課題を解決する案を企業にプレゼンテーションすることが目標ですか。

A

日経STOCKリーグは、企業への提案やプレゼンテーションを目的としたコンテストではありません。

参加者は、社会課題や関心のあるテーマを設定し、そのテーマに沿った株式ポートフォリオを構築したうえで、なぜそのテーマを選んだのか、どのような考えで企業や銘柄を選定したのかをレポートにまとめて提出していただきます。

その過程で、テーマに関係する企業について調べたり、取材したりすることはありますが、目的は企業への提案ではなく、経済や投資、社会課題について主体的に学び、考察を深めることにあります。

参加者向け説明会

説明会で答えしきれなかった質問にお答えしています。質疑応答の様子は動画をご覧ください！

テーマについて

Q

「面白いけれど現実味の薄いアイデア」と「現実的だけれどありきたりなアイデア」があったとすると、どちらがより評価されるでしょうか。

A

一概にどちらが評価されるということはありません。ポートフォリオの創造性・ユニーク性も評価項目の一つですが、それだけで評価が決まるわけではありません。

審査では、参加者独自の視点を取り入れながらよく考察できているか、また設定テーマとポートフォリオの構築に一貫性があるかなどを重視しています。そのため、独創的なアイデアであっても根拠や考察が不十分であれば高い評価にはつながりません。

一方で、身近なテーマであっても、独自の視点で深く考察され、テーマとポートフォリオが論理的に結び付いている場合は十分評価の対象となります。

スクリーニングについて

Q

スクリーニングやレポート作成の際、株価や財務指標を広く活用すると思いますが、具体的にはどのようなツール・ソフトウェア等が役立ちましたか。

A

主にExcelを活用し、企業データの整理や比較、スクリーニングを行っていました。

また、企業分析では各社のIR資料や有価証券報告書、日本経済新聞の記事などを参考にし、定量データだけでなく事業内容や将来性についても調査・分析しました。

レポート作成ではGoogleドキュメントを用いて共同編集を行い、チーム内で役割分担しながら完成度を高めていきました。

久保さん

参加者向け説明会

説明会で答えしきれなかった質問にお答えしています。質疑応答の様子は動画をご覧ください！

審査について

Q

審査において、フィールドワーク(企業訪問、アンケート調査等)はどの程度評価されるものですか。

A

審査項目ごとの評価配分は公表していません。

一方で、レポート審査では「学習への熱意・意気込み」を評価項目の一つとしており、その中にはアンケート調査や企業へのアプローチなどのフィールドワークも含まれます。

ただし、フィールドワークを実施したこと自体を評価するものではなく、それらの活動を通じてどのような発見や学びを得たのか、それをどのようにテーマの考察やポートフォリオの構築に生かしたのかを重視しています。そのため、フィールドワークの実施有無や件数のみで評価が決まることはありませんが、主体的な調査・研究の過程を示す一つの要素として評価しています。

Q

ポートフォリオのパフォーマンス(利益が出たかどうか)は評価に全く影響がないのでしょうか。

A

バーチャル投資システムでは500万円の仮想資金を用いてポートフォリオの値動きを観察しますが、ポートフォリオの評価額は審査対象ではありません。

Q

大学生の部において、ポートフォリオの理論性はどのように評価されますか。

金融・証券市場関連の初学者である学生に対する指導のポイントやアドバイスをお願いします。

A

審査では、参加者独自の視点を取り入れながらテーマについてよく分析・考察できているか、また設定したテーマとポートフォリオの構築に一貫性があるかなどを重視しています。

高度な金融理論や専門知識の有無そのものを評価するものではないため、金融・証券市場について学び始めたばかりの方でも、自ら調べ、考え、その結果を論理的に自分たちの根拠をもって、レポートへまとめていただければ十分に評価の対象となります。

参加者向け説明会

説明会で答えしきれなかった質問にお答えしています。質疑応答の様子は動画をご覧ください！

その他

Q

学校の勉強や行事との両立は大変でしたか？

A

正直なところ、大変な部分もありました。特に高校3年生は、学校行事や進路選択なども重なる時期でした。

久保さん

しかし、私たちのチームは学年をまたいだ構成だったため、メンバー同士で連携しながら、それぞれの予定に合わせて役割分担を行うことができました。

Q

グループのリーダーとして、必要とされるスキルは何があると考えられますか。

A

最も大切なのは、メンバー全員が主体的に参加できる環境をつくることだと思います。リーダーが一人で進めるのではなく、それぞれの得意分野を把握し、役割を明確にすることが重要でした。

久保さん

また、締切から逆算して計画を立てることや、意見が分かれた際に方向性をまとめる調整力も必要だと感じました。

Q

公開されているレポートのポートフォリオを実際に購入し運用している人はいますか。

A

公開されているレポートのポートフォリオを参考にする方はいらっしゃるかもしれませんが、実際にどの程度の方が投資判断の参考にしているかについては把握していません。

なお、日経STOCKリーグは特定の銘柄への投資を推奨することを目的としたものではありません。